

第8回協議会を開催しました



碩田中学校区
適正配置地域協議会
だより

第8号
平成25年6月



時五月十日(火)午後八時
第三十から、(火)の午後
第二小ホールに於いて、化
の協議会を開催し、事務
舎や運動場の面積の調査
や今年度の生徒数の推移
づく児童の数の推移を基
どについで説明を行う計
た。継続して、最初の協
にある地帯、津波対策の
に、報告があり、降に記
告の内容は、三降に記載し
て、その後の意見交換は、
設校の位置を、見交す、
り、の発生確率の高さを
などの海溝型地震を考慮
きと。また、一方では、
た。に起因する断層型の
等にも検討すべきとの意
響も示され、断層型の影
も最終的に「断層型、地
に對する考え方は、断層
に對する考え方は、断層

委員のご紹介

中島校長の佐藤幸委
員が、PTA会長を退任さ
れ、今回の会議より竹内
繁委員(中島小学校PT
A会長)が新たに本協
会の委員長となりまし
た。お知らせします。

門家に意見を伺うことは、どう
か、よりの意見が伺うことが
局、より、複数の専門家が
伺い、次回報告すること
認、され、校長から「協
は、最後の校長から「協
の、話も出たので、皆さん
校、区の特徴を、皆さん
う、区の方、各校におき
通、す。新設部分も、校
後、課、え、各、校、区、
い、た、う、の、よ、い、
れ、ど、い、う、の、よ、い、
か、と、い、う、の、よ、い、
く、と、い、う、の、よ、い、
震、津波と協議の必要はない
して、協議を、意見は、二
載、した、(主、な、意、見、は、
教育、次、回の、会議、は、中
に、その、内容、が、確認、さ
ない、う、の、内容、が、確認、
な、い、う、の、内容、が、確認、

第8回協議会における主な内容を掲載しています。

(発言内容については、紙面の都合で要旨のみとしています。ご了承ください。)

は委員の発言

は事務局の発言

【3小学校区の報告に関する意見】

防災に対する考え方は、住吉校区と他の校区とでは異なる。住吉校区では住民が避難できる建物を校区として必要としている。防災の観点から子どもの生命を守るための考え方として、碩田中学校地内に小中一体型の新設校建設が望ましいと思う。

荷揚校区は防災の観点から危険と言われているところに子どもを送り出したいくないという意見である。小学校統合と地域住民の防災避難拠点としての機能は別に考え、小学生の生命を大事にする形での選択を考えるべきではないかと思う。

中島小と荷揚町小の間に府内断層が示されているが、阪神大震災の時に活断層が想定外の地域で動いたとの話や、先日の淡路の地震でも大震災の時には出てなかった断層が地震を起こしたことを考えれば、想定されている府内断層帯の位置とは離れた場所で地震を起こすことも考えられる。

活断層がどこにあるかは、本当は分かりにくい。府内断層を問題にしているのは、活断層が動いた場合に海側が沈むと言われており、海側が沈むと地震、津波が来る前に海水が入ってくる可能性がある。子どもたちの生命を守るためにも、そのような危険性のある場所を避ける方向で考えるべきである。

活断層型地震の際には、府内断層より北は地盤沈下するとあるが、断層より南に位置する荷揚町小学校地に立地すれば安全と言えるのか。また、荷揚町小は1644年時点で既に陸上にあったとのことだが、液状化しないとは言えないのではないかと思う。

府内断層の南側に位置するので安全性があるのではという意味。また、確かな地面上にあったのは荷揚町小のみであるが、決して全く被害や液状化の心配がないと言うわけではない。このようなことを考慮しながら、より安全が確保される場所は4校の中でどこかと選択することが協議会の責任ではないかと思う。

断層はあるという結論は早いのではないが、また、液状化危険度マップでは、ほぼ全域が液状化の危険度が極めて高いとされている。おそらく荷揚・中島・住吉校区のどこに立地しても、防災の観点に関しては同じくらいの条件ではないかと思う。

国土地理院から出ている都市圏活断層図の中に府内断層に関する地図があるが、府内断層は想定ではなくて確かに存在する。

これまで海溝型地震しか考慮する必要はないという感じの論議が行われているが、徳島県が活断層に危険性があるならば公共の建物は建てさせないとの方向を打ち出したことが報じられている。活断層型を考慮に入れて話し合いを進める必要がある。

海溝型地震のみで良い、活断層型地震については考慮しなくても良いと発言しているわけではない。海溝型地震の発生確率は非常に高いので当然考えなければいけないが、活断層型地震は分からないことが非常に多い。新設校を建設となれば我々の知識では極めて難しいので、専門家に依頼してはどうか。

以前専門家に相談したが、専門家として場所を選定することは難しいと言っていた。しかし、色々意見もいただいたので、事務局で複数の専門家に意見を聞いてみたいと思う。

自助、共助、公助という考え方があるが、災害時には学校が避難拠点となる。そういう時に、全体から避難してくるのに便利の良い場所を考えれば、できるだけ中心に近い場所の方が避難生活を送る上でも良いのでは。

海に向かって子どもを登校させてよいのかということ考えた時に、やはり一番に津波の被害を受ける場所から遠ざけたいというのが母親として一番の気持ちではないかと思う。

協議の終了時期を決めて、教育委員会がどこに立地をする、どういう教育を行うということを発表する日程を早める雰囲気は協議会でつくっていかないと、保護者はどの学校に就学させるかと戸惑うのではないかと思う。

我々は所属する校区だけの問題ではなく、あくまでも3小学校区内の子どもたちと住民を含めた安心安全の討議をするわけなので、もう少し幅広い考え方でどこに建てたらベターであるかということをも具体的にしなければ時間がない。大分市で最初のモデルになる地域なので、早くどこが良いかとの結論を出さなければならない。



第8回協議会で確認した事項

地震・津波対策等の防災に関することについて、事務局より複数の専門家に意見を伺い、次回報告すること。

各校区において碩田中学校区の新設校建設候補地に係る観点の表を全て記載し、会議の10日前までに事務局へ提出し、その表について次回協議すること。なお、住吉校区については、碩田中学校区地とする考え方で提出すること。

第9回地域協議会は6月25日(火)の18:30~20:30に、第10回地域協議会は7月30日(火)の18:30~20:30に、いずれも大分文化会館第2小ホールで開催すること。

各校区における協議結果の報告について

今回の会議では、協議事項の一つである地震・津波対策等の防災対策について、碩田中学校区の新設校建設候補地に係る意見要望として、各校区における協議結果の報告があり、その報告に対して意見交換を行いました。

以下では、各校区における協議結果として報告されたものを要約して掲載しています。

【荷揚校区】

新設校について『防災に関する私たちの基本方針』は、
《学校で誰も死なせない》 《「想定外」は許されない》
《後生のために今頑張る》であり、具体的には、

- ア、活断層型地震と海溝型地震とが連動する危険性が高いので、予想される津波災害から子どもたちの命を守るため、新設校は海岸線・河川からより遠い内陸部につくってほしい。
- イ、今後少なくとも50年後を見通し、安全・安心な学校にする。
- ウ、地盤の来歴や液状化の危険性を考慮して、万全の災害対策を施し最大限強固な施設・設備にしてほしい。
- エ、地域の防災やコミュニティの拠点としての機能を継続するため、統合された後に残る2小学校区の学校施設を拡充し、活用してもらいたい。

荷揚校区の詳細な資料は、大分市ホームページ『第8回碩田中学校区適正配置地域協議会』をご参照ください。



【中島校区】

南海地震等では、津波をはじめ大きな影響を受けることが想定される。(4校とも共通)

この為、校舎や施設は十分な耐震性や液状化対策等を実施計画に織り込むこと。

津波への対応は迅速な避難が最重要であり、校舎を避難ビルとして使用出来るよう、校舎の階数や階段の仕様、非常用資材の備蓄等を検討すべきである。

長時間の避難や風雨寒さから身を守るには、校舎が適しており、地域の要援護者、高齢者、幼児や保護者等の避難にも利用できるようにすべきである。

登下校時の対応は、学校に戻るか帰宅を急ぐか、通学ルート上の一時避難ビルに避難するかの判断を、教育訓練を通じ児童に修得させる。(地域の支援協力も必要)

中島小学校周辺には指定避難ビルが多くあり、必要に応じて避難が可能である。(周辺地域：中島西15棟、中島中央9棟)

総合病院である日赤病院も近くにある。



【住吉校区】

碩田中学校校地内に小中一体型の新設校建設が望ましいと思われる。
 新設校建設により小学校3校の子ども達の命を守るだけでなく、中学生の命も守ることを考えれば、碩田中学校校地内に建設することが望ましいと判断する。
 住吉小学校校地に小学校3校を新設した場合に、防災の観点から碩田中学校に進学するかどうかを検討する児童が増える可能性があるため4校の中で一番敷地面積大きい校地（碩田中学校）に一体型の校舎を建設することが望ましい。
 子ども達の命を守ることは当然のことであるが、保護者や住民の命を守る拠点として学校の存在は大きく、特に住吉小学校周辺には避難ビルが少なく、保育所などの幼児の命を守るためにも期待は大きい。
 現時点で指定避難所ビルを含む避難所の少ない住吉小学校校区では、今後もマンションなどの建設も期待できないことから、新設校への期待値が高く、学校にいる間、家庭にいる間、地域で遊んでいる間を問わず、新設校での防災対策が必要な地域である。
 ある程度の大きさの敷地内に校舎を建設することで、避難時に不可欠な廊下や階段の幅を確保できる。避難生活時に必要となる体育館の大きさも確保し、2階・3階建てにできる予算を確保するには小学校3校だけではなく、中学校を交えた4校での新設校計画が必要である。
 H26年度には、碩田中学校隣接の社会福祉協議会が大分市教育センターになることが予定されているので、その施設の利用や職員の協力などにも期待ができる。



【碩田中学校区の具体的状況について】

今回の会議では、今年度の5月1日調査結果を基に、碩田中学校区内の児童生徒数の状況や3小学校を統合した場合の児童数・学級数のデータを事務局から示されました。

下表は、3小学校を統合した場合の推計値を記載しています。25年度ではそれぞれの小学校の児童数・学級数の実数を示しています。なお、一番下の欄には統合した場合の児童数・学級数を記載しています。29年度では3小学校が統合した場合、792名、25学級になると想定されますが、入学前に転出入があったり、市立小学校以外に就学するなどして、実際にはこの推計値通りになるかどうかは不明です。

学校名		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
荷揚町小	児童数	196	200	190	214	226	235	264
	学級数	7	7	6	7	8	9	10
中島小	児童数	286	293	300	317	335	348	363
	学級数	11	12	12	12	13	12	12
住吉小	児童数	200	210	214	213	231	251	248
	学級数	7	8	9	8	9	10	10
統合	児童数	682	703	704	744	792	834	875
	学級数	21	22	22	23	25	26	26

学級数は「通常の学級」のみ掲載しています。

ますでに基の
 するの居に児こ
 。と子住、童の
 仮どし現数推
 定もて在・計
 しがい碩学は
 てそる田級、
 算の○中数二
 出ま、学の十
 しま五校実五
 て入歳校数年
 い学ま区を度

次回は6月25日(火)開催

第9回協議会は、6月25日の午後6時30分から午後8時30分まで、大分文化会館第2小ホールで開催します。

碩田中学校区適正配置地域協議会だより「第8号」

発行:平成25年6月
 発行者:碩田中学校区適正配置地域協議会
 事務局:大分市教育委員会教育企画課
 連絡先:(住所) 大分市荷揚町2-31
 (TEL) 097-537-5903(直通)
 (E-mail) kyoiukikaku@city.oita.oita.jp